



2011年度 観光カリスマ講座



■主催

国立大学法人

和歌山大学

■後援

社団法人和歌山県観光連盟

和島興産株式会社

フェスタ
国立大学2011 JANU

観光カリスマ講座

本講座は、各地で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地のキーパーソンを招聘します。観光カリスマのユニークな発想やリーダーシップを発揮しての事業の推進やコンセンサスの形成方法等の実践事例を拝聴するなかで、和歌山県の観光振興と地域再生の方向性を探る上で参考となる「生きた交流の場」とすることをめざします。

第1回 今こそ観光立国の実現を！

10月13日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテ・ワジマ4階 多目的ホール

国土交通省 観光庁長官 **溝畑 宏**

未曾有の災害をもたらした「東日本大震災」、そして、ヨーロッパとアメリカの経済不安に連動した「円高」の進行等々、今、日本は「国難」とも言われる激動の渦中にあります。このような“時”にあたり、この「観光カリスマ講座」の冒頭講演に昨年度に引き続き観光庁溝畑宏長官をお迎えすることができました。

周知の通り平泉が世界遺産に登録されました。「観光」は、東日本大震災復興の切り札の一つと言われます。このような“時”だからこそ、今こそ観光立国の実現を！溝畑長官に熱く語っていただきます。

第2回 ～子孫に遺す町づくりへの挑戦～ 町をブランド化した男の話

10月20日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/フォルテ・ワジマ4階 多目的ホール

㈱綾わくわくファーム代表 **浜田 倫紀**

宮崎県に綾町という人口7,500人の小さな町がある。この町に毎年100万人強の観光客が訪れる。国内最大規模の照葉樹林帯(常緑広葉樹)を残したことで町づくりが始まった。日本で最初に「自然生態系農業の推進に関する条例」を作った町でもある。

最近、都会からの移住者と工芸家が増えた(43工房)。専門的なフランス料理屋、イタリア料理屋が4軒、精進料理屋と薬膳料理屋も2軒ある。また、集落の役目が多く、煩わしい家族関係が存在する、不自由で豊かな町である。

この町づくりはカリスマ町長の出現と地域の最末端の政を担う自治公民館制度を確立した事から始まった。

第3回 観光地でもない山村に人が来る馬路村農協の取り組み

11月17日(木) (17:50集合) 18:00～19:30 *休憩10分を含む 会場/ホテルアバローム紀の国

高知県馬路村農業協同組合 代表理事専務 **東谷 望史**

人口1,000人の村、四国高知の山村でゆずを作りだれに、どのように売っていくか。

長い取り組みの中で出した結論はダイレクトマーケティングだった。それは村を売る手法によって地域イメージを作り上げる長い取り組みとなった。

結果として80人の雇用と年間300団体の視察、そして観光客が訪れる村となった。

その取り組みを映像を交えて話します。

第4回 住民自治と地域経営 — 文化経済自立都市・飯田への挑戦

12月15日(木) (17:50集合) 18:00 ~ 19:30 *休憩10分を含む

会場/フォルテ・ワジマ4階 多目的ホール

飯田市長 牧野 光朗

地方圏が活力を維持・創出し、持続可能な地域社会を形成していくためには、「地域経営」の視点が欠かせない。「定住自立圏構想(総務省)」「環境モデル都市(内閣府)」等、戦略的・先進的に取り組む長野県飯田市の取り組みを通して、地域経営とは何か、地域政策の立案はどうあるべきか等について学び、考察する。

少子高齢化・人口減少時代を迎え、地方都市を取り巻く環境がますます厳しくなる中、牧野市政においては「文化経済自立都市」を目指し、「人材サイクルの構築」(いったんは故郷を離れた若い人たちが、①帰ってこられる産業づくり、②帰ってきたいと考える人づくり、③住み続けたいと感じる地域づくり)に取り組んでいる。

地域の歴史・文化・風土を活かした、民間や市民との協働による地域振興策について紹介します。

第5回 地域素材の活用術と観光による産業循環

1月19日(木) (17:50集合) 18:00 ~ 19:30 *休憩10分を含む

会場/フォルテ・ワジマ4階 多目的ホール

NPO法人「素材広場」理事長 横田 純子

宿の地産地消は当たり前の時代。全国で地産地消に取り組んでいない宿は皆無とっていいでしょう。しかし、100%地元のものを使っている宿が少ないのも事実。それは宿と地域の生産者の直接交流が希薄になっていたことや、業務用の食材に頼り切っていたことが原因といえます。地産地消が当たり前になった時代に、地元の素材を宿の差別化に活かすことで、地域でおこる産業循環こそが地域活性のヒントと考えています。

素材広場はそこでどのような役割をしているのかを事例で紹介いたします。さらに、大震災後に素材広場が取り組んだ地域復興の活動内容や、福島県の観光復興に向けどう考え、どう行動したかをご紹介します。

第6回 中山間地域を活かす～人こそが地域を創る

2月16日(木) (17:50集合) 18:00 ~ 19:30 *休憩10分を含む

会場/フォルテ・ワジマ4階 多目的ホール

ゆめ倶楽部21 山下 泰三

「ゆめ倶楽部21」は、中山間地域の負の部分である「高齢化・人口減からなる地域コミュニティ(集落維持)の危機」「高齢化・鳥獣害被害からなる農業生産意欲の低下が招く耕作放棄地の増加」「商工業・観光・交流産業分野における人材不足」等の課題を解決しようと平成14年度に設立。

「体験から交流、交流から定住へ」をテーマとして「体験型観光、農家民泊の推進」「産(わかやま産業振興財団、和歌山社会経済研究所)・学(和歌山大学)・官(日高川町)の連携による地域振興」「都会からの移住者の受入」を三本柱に施策を推進。多くの地域住民と移住者が手を携えて地域づくりを進めている様子を紹介します。

第7回 パネルディスカッション 和歌山県の観光と地域の明日を語る

3月8日(木) (17:50集合) 18:00 ~ 19:30 *休憩10分を含む

会場/ホテルアバローム紀の国

和歌山県知事

仁坂 吉伸

和歌山大学
観光学部長

山田 良治

(コーディネーター)
観光学部教授

小畑 力人

この「観光カリスマ講座」を締め括るパネルディスカッションです。和歌山県観光連盟会長である県知事仁坂吉伸は、「観光立県」を推進する和歌山県の観光政策を論じます。一方、国立大学初の観光学部として観光と地域再生に果たす大学の役割に言及するとともに、今春、第一期卒業生の民間企業「就職率100%」実現を始めとした観光学部学生の「元気」を紹介します。県と大学、それぞれの立場から、和歌山県の観光と地域の明日を拓く、政策と担い手である「ひと」について語り合います。参加者のみなさんからのご意見や提言も交えてディスカッションを進めます。



会 場：フォルテ・ワジマ(旧 丸正百貨店ビル)4階 多目的ホール

〒640-8033 和歌山県和歌山市本町2-1

ホテルアバローム紀の国 4階 プレジール

〒640-8156 和歌山市湊通丁北2-1-2

定 員：社会人 80名、 観光学部学生 70名

講習料：無料



国立大学法人

和歌山大学

<http://www.wakayama-u.ac.jp>

[観光学部教務係] TEL 073-457-8542 FAX 073-457-8540

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。